

私たちの医療理念

2006年3月27日制定

人権をまもり、健康な暮らしに役立つ医療を地域とともにつくります。

理念に基づく行動

- ◆医療が保障される社会づくり
 - *個人が尊重され、社会的不平等のない医療・福祉制度の実現をめざします。
 - *最大の環境破壊である戦争に反対し、平和と環境をまもります。
- ◆私たちの医療の目的と姿勢
 - *すべての人々が、健康に生き、尊厳をもって療養できるよう支援します。
 - *利用者によりそい、自律を育み、安全・安心で最適な医療・介護を行います。
- ◆医療従事者としての成長
 - *科学的視点と高い倫理観をもち、医学の成果と社会の進歩に学びます。
 - *地域のなかで、育ちあう喜びとやりがいを感じられる職員に成長します。

私たちが目指すもの(基本方針)

2018年4月1日制定

人を人として尊重し、地域包括ケア時代に輝く急性期病院になる
～病院のリニューアルを成功させる(準備する)～

- ①救急医療・がん医療を軸に急性期病院としての医療機能と質を高める。
- ②総合性と専門性を備えた医療専門職が集い、育つ病院となる。
- ③ヘルスリテラシーを高める活動とともに、健康の社会的決定要因(SDH)の視点を日常診療にいかした生活支援を行う。
- ④4つのセンターを中心に、各医療チームの活動が発展する組織運営を行う。

2023年 年報 巻頭言



院長 増田 剛

2023年度は、当院にとって大きな転換期となる一年でした。「転換」の中身は、勿論未来に向かって発展するためのものではありませんが、その難度と負荷の大きさは予想以上で、かつてないような新しい質の困難に直面することになりました。

大雑把に振り返れば、5月に6回目の病院機能評価を受診、8月にふれあい生協病院の開院により二病院化、併せて9年ぶりの電子カルテ更新、そして、かつてない程の厳しい経営環境下でのリニューアル事業の進展、そして忘れてはならないのは、新型コロナ患者への対応を休むことなく取り組んだ1年だったということです。

国内外の社会・政治状況では予断を許さない事態が進行しました。

ロシアによるウクライナ侵略は2年目も終わることなく継続し現在もまだ続いています。そして2023年10月から始まったイスラエルによるガザ地区での凄惨な人権侵害は、飢餓を利用するなど明らかな国際法違反が横行し、世界中から批判の声が上がっています。

国内に目を移せば、第211国会では、難民の人権を蔑ろにする入管法の改悪や却って差別を助長するようなLGBT法案、そして原発推進の方向性が強行的に決められました。社会保障分野では、防衛費の増額を受け、全体として抑制的な政策が進められました。そして、年明け日には能登で大地震が発生し、半年以上に渡って下水道の復旧が遅れたことや、今年9月の豪雨災害では折角できた仮設住宅が浸水し使い物にならなくなる等、人災の様相が顕著になりました。加えて、志賀原発の避難経路である道路が地震で寸断され、珠洲ではかつての原発建設予定地が数メートル隆起するなど、あらためて原発の安全性に大きな疑問符が付くような事態が発生しました。

一方、人権をめぐる諸運動は当事者と支援者の共同した運動が前進しました。同性婚裁判は6つの地裁判決が出揃い、概ね違憲、違憲状態という判断が下され、二審でも同様の傾向で審理が進んでいます。また、トランスジェンダーの性別変更の際の手術要件について最高裁で違憲判断が下されました。こうした前進に大いに励まされた1年でもありました。

丸4年に及んだ新型コロナへの対応は大きな節目を迎えました。2023年5月に新型コロナウイルスが感染症法上の「5類」に分類し直され、対応ルールや行政からの公的補助が大きく見直されました。最も深刻だったのは、埼玉県が全国に先駆けて医療機関への補助金支給をほぼ全面的に終了したことです。どういう経緯でこれが決まったのかは定かではありませんが、埼玉県政史に残る愚策だと敢えて言わせて頂きます。新型コロナ患者への診療を相当数行わなければならない状況での補助金カットは医療機関の経営に大きな負担となりました。

加えて、異常円安と物価高騰が更なる打撃となって、全国の医療・介護施設を苦しめています。今年9月、全国の公立病院決算が発表され、2022年度の約2000億の黒字から2023年度は約2000億の赤字に落ち込んだことが明らかになりました。診療報酬という公定価格でしか運営出来ない、つまりは物価上昇を価格に転嫁できない医療・介護事業所にとって行政の支援がないことがどれ程罪深いことかということを示していると思います。倒産件数も過去最高を記録するなど事態は深刻です。税金からの補填が得られない民間病院にとっては、極めて苦しい事態であり、冬の一時金の減額や病院としての忘年会を自粛するなど、奮闘している職員にも直接的な負担が及んでいる状況に管理者として胸が痛みます。

現在に至るまで、そして当面の間、経営については困難な状況が続くと思われまます。当院の仕事の中身を見直し、より多くの患者さんのニーズに応えられるように、経営活動の質を上げていくことは勿論ですが、他産業の賃上げペースに遠く及ばないような現行の診療報酬では医療介護労働者の生活向上に資することは出来ません。全国の病院団体などと結束した力で、いのち第一の政治への転換を求めて行きたいと思ひます。

昨年8月にふれあい生協病院が開院し、2つの病院群として新しい歩みを開始した訳ですが、二病院化と同時に電子カルテの更新も行い、また、既存施設の改装などへの対応もあり複数回の引っ越しを行うなど、大変複雑でストレスフルな経緯でした。そして何よりも、患者さん・利用者の皆さんには多くの迷惑をお掛けしてしまいました。今でも、採血室までの長い廊下に置かれた椅子で一休みする方の姿を見掛ける度に申し訳ない気持ちになります。2026年のグランドオープンまで暫くはこの状況が続きます。多くの方々のご協力に対する感謝を忘れずに日々の仕事に取り組んで行きたいと思ひます。加えて、困難な中、粘り強く励んでくれた全ての職員に感謝致します。

困難な状況を抱えての船出となりましたが、「病院群」としてのアドバンテージが出始めていると感じています。在宅医療やそのバックアップ機能が大きく充実したこと、そして、ERからのスムーズな入院、紹介・逆紹介の前進などはその確かな証左です。

手術や専門医療、そして働き方改革への対応としてのタスクシフトなど、これまで以上に充実させていくべき課題についても担当する職員たちの大奮闘が目立ちました。

社会情勢や経営環境の厳しさを乗り越えるような実践が求められます。地域で真に役に立つ病院群として、今後も進化を追及することをお約束して巻頭言と致します。

埼玉協同病院 年報 2023年 VOL.36 (通巻第38号)

目次

I. 病院の概要	1	耳鼻咽喉科	95
1. 概要	2	精神科	96
2. 組織構成図	4	麻酔科	97
3. 2023年度事業所スコアカード	5	ペインクリニック	98
4. 2023年度活動報告	6	病理診断科	99
5. 主要行事	12	放射線科	100
6. 施設基準	13	緩和ケア内科	100
7. 教育研修施設等	15	健康増進センター	102
II. 統計	17	IV. 部門の活動状況	103
1. 医療の質改善	18	医療安全管理室	104
2. 退院患者統計	33	感染管理室	105
3. 外来患者統計	53	看護部	105
4. 救急患者統計	55	外来看護科	108
5. 地域連携のまとめ	57	C2病棟看護科	108
6. がん登録統計	59	C3病棟看護科	109
7. 副作用報告	61	C3病棟看護科(小児科)	110
8. 細菌薬剤感受性検査統計	63	C4病棟看護科	111
9. 病理年報	65	C5病棟看護科	112
III. 診療科活動状況	67	東2病棟看護科	113
内科	68	東3病棟看護科	114
循環器内科	70	東4病棟看護科	116
呼吸器内科	72	東5病棟看護科	117
消化器内科	74	北2病棟看護科	118
糖尿病内科	76	透析看護科	119
腎臓内科(透析)	77	手術看護科	120
救急・総合内科	79	看護育成課	121
在宅医療	79	看護サポート科	122
リハビリテーション科	80	薬剤科	122
被ばく相談外来	81	検査科	124
禁煙外来	81	放射線画像診断科	125
小児科	82	リハビリテーション技術科	126
外科	84	食養科	127
乳腺外科	86	ME科	128
整形外科	87	総合サポートセンター	129
脳神経外科	89	入院医事課	130
産婦人科	90	外来医事課	131
皮膚科	93	医療事務課	132
眼科	94	医療情報管理室	133
		経営企画室	134
		医師アシスト課	135

医局事務課	136
システム管理課	137
資材課	137
環境管理課	138
総務課	139
健康まちづくり課	140
つくし保育所	140

V. 委員会等活動状況	143
委員会組織図	144
倫理委員会	145
研究倫理審査委員会	146
クオリティマネジメントセンター	147
教育研修センター	148
医療安全委員会	149
感染対策委員会	150
感染対策チーム (ICT)	150
部署 ICS 会議	151
抗菌薬適正使用支援チーム	152
臨床研修管理委員会	153
医師初期研修委員会	153
栄養管理委員会	154
臨床検査適正化委員会	155
輸血療法委員会	155
透析機器安全管理委員会	156
医療ガス管理委員会	157
適切なコーディング委員会	157
報告書確認対策チーム	158
労働安全衛生委員会	158
働きやすい職場づくり委員会	159
防災対策委員会	160
省エネルギー事業所推進事務局	160
保育運営協議会	161
外来診療委員会	161
病棟診療委員会	162
ER 運営会議	163
がん診療委員会	163
手術室運営会議	164
経営委員会	165
病院利用委員会	165
生協なかまづくり委員会	166
SHJ 委員会	167
HPH 推進委員会	168
広報委員会	169
薬事委員会	170

医療材料検討委員会	171
電子カルテ委員会	171
クリパス委員会	172
医学生委員会	173
看護学生委員会	174
がん化学療法チーム	175
乳腺科医療チーム	176
透析医療チーム	177
術後疼痛管理チーム	178
褥瘡チーム	178
栄養サポートチーム (NST)	179
緩和ケアチーム	180
循環器医療チーム	181
糖尿病医療チーム	181
呼吸器医療チーム	183
消化器内科医療チーム	183
子育て支援チーム	184
小児虐待対策チーム	185
認知症ケアチーム	186
精神科リエゾンチーム	188
院内迅速対応チーム	188

VI. 研究業績	191
1. 学会発表	192
2. 埼玉協同病院 医療活動交流集会	194
3. 埼玉民医連 看護学会	195